



共立女子大学コレクション 家政学部学生による企画展

民族の伝統美

琉球とアイヌの衣裳

H24.9/24(mon)
H24.11/1(thu)

休館日：日曜日・祝祭日
及び10月18・23・24日

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 TEL03-3237-2435
・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車 A8 出口から徒歩1分
・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 1b 出口から徒歩3分

民族の伝統美

～琉球とアイヌの衣裳～

南北に長い日本列島にあって、その最南端に位置する沖縄と最北端に位置する北海道には、それぞれ地理的な特性に根差した独自の文化が存在していました。人々の行き来が現代のように容易ではなかった時代には、それぞれ独自の特徴を生み出しやすかったからです。

常夏の地である沖縄が、琉球と呼ばれる独立国家であった時代、衣服もその気候に合わせて緩やかに仕立てられていました。しかし一方で、表向き独立国としての形式を保ちながらも、実質的には中国と日本の二重支配を受けていたことを反映して、衣服の色や模様にも中国と日本の影響を強く表わしています。

これに対して、寒冷の地である北海道で、大自然と協調しながら独自の生活を育んでいたアイヌの人々は、やがて本州の日本人や中国人との交易などが盛んになると、衣服などの一部に本州からもたらされた裂を用いるようになりました。

今回の展示では、琉球とアイヌの文化がまだはっきりと独自性をとどめていた頃のそれぞれの服飾品を対比させ、異なる気候条件や社会背景をもっていたこれら二つの文化圏が生み出した伝統美を紹介したいと思います。

主な展示作品



標木綿地桜春草模様紅型衣裳
琉球王府時代・19世紀
共立女子大学蔵



濃茶地カパラミブ
明治～大正時代・19～20世紀
共立女子大学蔵



上：マンタリ
明治時代・19～20世紀
下：タマサイ
江戸～明治時代・19世紀
共立女子大学蔵